

第4回会議の主な意見

- ・職員さんの思いは統合の方向にかなり強く傾いていると思う。
- ・少なくともこの中で言えば、加悦庁舎の環境がベターと分かってきたので、元気館のあり方も含めて、どのような使い方や総合庁舎を作っていくのかについて議論を進めていくべき。
- ・①職員の働く場としての環境、②職員同士のコミュニケーション、③住民に対するサービス、の3つで検討してはどうか。
- ・庁舎のあり方そのものについては、それを利用される住民の意見を聞くべき。
- ・住民の皆さんと一緒に継続的に知恵を絞っていきましょう、というメッセージを、この委員会としても出していくべき。
- ・庁舎統合の要件を出してもいい。

第4回会議 委員長まとめ

- ①誰にとっても快適な環境をしっかりと整える。
- ②庁舎が持つべき機能を確保、あるいは向上させる。（オンラインとオフラインを有効に活用）
 - ・今まで分かれていたことによって欠如していたコミュニケーションを一度、再結合させるという視点が大きなキーになる。
 - ・住民が恐らく抱えるであろう不安材料を、あらかじめできるだけ取り除いてあげることが大事（例：FAQの作成）

統合していくという方向性については委員会としてはほぼ見解の一致が見られた。また、職員の意見を伺う限り、その方向性が大勢であるということも一定確認できた。

庁舎統合で想定される選択肢と主な論点

	選択肢	時期	事業費	課題	空き庁舎
①	新しい庁舎を建設	多額の財源確保、及び優先する他の大規模事業の実施を踏まえた財政規律の確保を鑑みた時、相当先の工事着手となる見込み	■新庁舎建設 【参考】 京丹波町新庁舎整備事業 約30億円 京丹後市庁舎増築棟整備 約36.5億円 ※移転までの間、既存庁舎維持管理のための投資が必要となる可能性もあり ■移転 什器・備品移設の他、情報システム、防災無線関連の移設整備	・整備内容（複合化含む） ・住民サービス（オンライン等） ・建設場所 ・財源確保 ・整備手法（PPP/PFI等の民間資金の活用等） ・防災体制 ・地域公共交通等	・岩滝庁舎、野田川庁舎北庁舎、加悦庁舎の活用方法
②	既存の庁舎の中で一つに統合し、しかるべきタイミングで新庁舎に移転（2段階方式）	【既存庁舎統合】 各種調整、財源確保次第 【新庁舎建設】 上記①のとおり	■庁舎改修等 【参考】 加悦庁舎及び元気館改修等工事 約3億8,500万円（平成23年試算） ※事務室、書庫など内部改修の他、車庫、駐車場の拡張なども考慮して試算 ※移転までの間、既存庁舎維持管理のための投資が必要となる可能性もあり ■移転 什器・備品移設の他、情報システム、防災無線関連の移設整備 ■新庁舎建設 上記①のとおり ■再移転 什器・備品移設の他、情報システム、防災無線関連の再移設整備	・統合する庁舎の決定 ・統合する庁舎の改修内容 ・財源確保 ・整備内容（複合化含む） ・住民サービス（オンライン等） ・建設場所 ・財源確保 ・整備手法（PPP/PFI等の民間資金の活用等） ・防災体制 ・地域公共交通等	・岩滝庁舎、野田川庁舎北庁舎の活用方法 ・移転後の加悦庁舎の活用方法
③	既存の庁舎の中で一つに統合し、長寿命化改修により長期間使用 ※加悦庁舎であれば築20年（R4.4現在）であり、少なくとも今後30年は利用可能	各種調整、財源確保次第	■庁舎改修・長寿命化改修等 【参考】 加悦庁舎及び元気館改修等工事 約3億8,500万円（平成23年試算） ※事務室、書庫など内部改修の他、車庫、駐車場の拡張なども考慮して試算 【参考】 構造躯体（柱、梁、壁、基礎等の構造耐力上主要な部分）を再利用する長寿命化改修では、構造躯体の新築工事が無いため、新築と比べて工事費を3割程度下げることができる。さらに、改築と比べると、解体量が大幅に削減され、工期も短縮されるため、4割程度のコストダウンにつながるとされている（「学校施設の長寿命化改修の手引」（平成26年1月、文部科学省）） ■移転 什器・備品移設の他、情報システム、防災無線関連の移設整備	・統合する庁舎の決定 ・統合する庁舎の改修内容 ・財源確保 ・住民サービス（オンライン等） ・防災体制 ・地域公共交通等	・岩滝庁舎、野田川庁舎北庁舎の活用方法